

第 316 回 昭和の森自然観察会

春 の 花

井上智史(川崎市)

日 時：2018 年 4 月 8 日(日) 13～15 時 天気：晴れ

参加者：18 名(大人 15 名、子ども 3 名)、指導員 12 名

担当指導員：佐藤一枝、井上智史

今年はカタクリもサクラ(ソメイヨシノ)も例年より早く、もう花は終わってしまっていました。というわけで昨年準備したものの雨天中止となった「春の花」ネタを使おうという目論見は早々に潰えたのでした。

というわけで、気温は低めながら青空の下、春の花々を見てまわりました。

まず、スタート地点近くのツツジで花の基本的な構造を確認したあと、カエデ、タンポポ、コナラ、サクラ(種不明)を観察。これだけでもかなりタイプの異なる花を見ることになりました。カエデやコナラの花は普段あまり意識することができないので、参加者にとって新鮮だったように思います。

タチツボスミレなどを見ながら菖蒲田の方に下りてから、ウワミズザクラ、イカリソウ、ツクバキンモンソウ、ナズナ、フジなどを観察しました。グミの花の匂いもかぎました。道端にポツンとあるウラシマソウは、その姿かたち、受粉のための仕掛け、性転換など話題豊富。みかけた個体はみなオスでした。メスもあると比較できてよいのだけれど、ないものは仕方がない。

急な階段を登りきったお花見広場には、八重桜が見事に満開。足元にはたくさんのタンポポ、少し行くと色の濃いスミレも。見るものが多く、そこかしこで指導員による詳しい解説の輪ができていました。

さて私事ですが、この春に千葉県外に転居したため、自然観察ちばを退会しました。2009 年 2 月に入会して以来、昭和の森の観察会を中心に活動させていただきました。経験豊富な指導員のみなさまと素晴らしいフィールドで多くのことを学びました。ありがとうございました。いずれまた、どこかの観察会で。

